

令和6年度全建賞 推 薦 調 書
異なる部門の事業が連携した取組の部(部門連携の部)

ふ り が な	さんぽーとたかまつちくとしさいせいせいびじぎょう～ひとがあんぜんでかいてきにあるけるとしこうかんづくり～
1. 事業(施策)の名称	サンポート高松地区都市再生整備事業～人が安全で快適に歩ける都市空間づくり～
2. 事業(施策)実施期間(和暦)	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日
3. 事業費(工事費)	1,668 百万円 (うち、都市事業 1,251 百万円、港湾事業 417 百万円)
4. キーワード	プロムナード、にぎわい創出、ウォークアブル、都市空間、香川県立アリーナ、港湾緑地、歩行者空間、道路空間の再配置
5. 事業概要	本整備は、官民の施設整備が進むこの機に、エリアが一体となった歩行者優先のまちづくりを進め、一層のにぎわいを創出するため、車道の一部を歩行者空間化し、イベントなどでもできるよう再整備するとともに、より魅力的な海辺空間となる港湾緑地等の施設整備と連携し、さらなる魅力向上及び観光客の受入態勢の強化を図ったものである。

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	(a)都市と港湾の事業連携	(b)産学官連携による検討会議 (d)関連イベントの開催、社会実験 (h)施策の確立・実施
アピールする 2)「秀でた成果」	(a)当該事業による本来目的の効果 (e)良好な景観形成の実現 (f)地域の活性化(にぎわい空間の整備)	(e)良好な景観形成 (f)地域の活性化(にぎわいの創出)

7. 特にアピールしたい点
(1)官民による施設整備が進むサンポート高松地区 サンポート高松地区では、香川県立アリーナや大学、駅ビル、外資系最高級ホテル等の官民による施設整備が進んでおり、この機に香川県と高松市が連携し、エリア一体の一層のにぎわい創出と魅力向上に取り組んだ。 (2)産学官連携による検討会議と社会実験等の実施による合意形成 地区周辺の交通事業者などの関係者、学識経験者、行政機関の産学官で組織する「高松中心市街地プロムナード化検討会議」を設立し検討を重ねるとともに、G7香川・高松都市大臣会合関連イベントや社会実験、地元説明会、住民アンケート調査等を経て、地域住民や周辺関係者との合意形成を図り、プロムナード化の工事を実施した。 (3)異なる部門の連携(プロムナード化と港湾緑地の整備) 歩行者優先のまちづくりを進め、歩く人や滞在する人を増やすとともに、本エリアが一体となったにぎわい空間を創出し、サンポート高松地区の価値をさらに高めるため、道路空間を再配分し、プロムナード化を行った。 また、近接する港湾エリアについて、港湾緑地等の整備を連携して実施することで、さらなる魅力向上及び観光客の受入態勢を強化するとともに、サンポート高松地区全体のにぎわい創出、来訪者の満足度向上を図った。

8. 事業を代表する写真及びキャプション



官民による施設整備が進むサンポート高松地区

9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

【官民による施設整備が進むサンポート高松地区】

サンポート高松地区は、高松市の沿岸部に位置し、高度な都市機能とコンベンション機能の導入等を目的とし、平成16年3月にグランドオープンした広域交流拠点であり、また、JRや私鉄、路線バス、高速バス、航路などが集結する県内最大の交通結節点でもある。当該地区では、香川県立アリーナや大学、駅ビル、外資系最高級ホテルといった官民による施設整備が進んでおり、行政としてこの機を活かすため、一層のにぎわい創出に取り組んだ。



サンポート高松地区

【産学官連携による検討会議】

歩行者空間の課題を抽出し、都市空間の再編に向けた検討を行うことを目的として「高松中心市街地プロムナード化検討会議」を設置した。委員会は、周辺の交通事業者などの関係者、学識経験者、行政機関で構成し、中心市街地のにぎわい創出や道路空間の再配分によるプロムナード化の整備内容について、検討を行った。



検討会議の様子

9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

【社会実験等を通しての合意形成】

社会実験等を通してプロムナード化工事に関する住民等との合意形成を図った。令和5年に開催された「G7香川・高松都市大臣会合」の関連イベントとして、検討区間を通行止めにして道路空間を活用したマルシェを開催した。また、プロムナード化が周辺交通等に及ぼす影響を把握するため、社会実験を実施した。さらに、住民説明会や市民アンケート調査などを通して、地域住民や周辺事業者との合意形成を図った。今後は、現地の状況を見ながら、必要な改善を行い、一層の合意形成を図ることとしている。



【プロムナード整備】

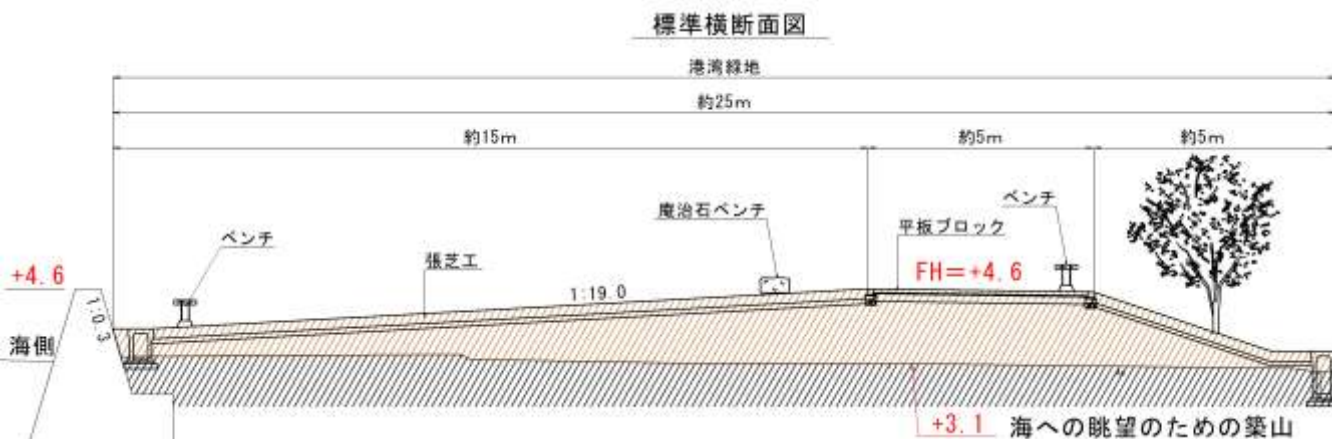
道路空間の再配分によるプロムナード化について、当初は車道4車線を完全に歩道化する検討を行っていたが、日常生活への影響や緊急車両の通行を心配する声をいただいた。このことを踏まえ、車道4車線を歩行者空間化することで居心地が良く歩きたくなる空間として整備するものの、当面、平日は終日、土日休日は夜間早朝に車両が通行できる運用に見直し、土日休日の9時～21時は、車両通行止めにして歩行者専用道路として利用するが、災害時や緊急時には関係車両が通行できる運用に改めた。加えて、滞在したくなる空間を形成するため、植栽ベンチの設置やデザイン性のある平板ブロック配置など、道路空間の高質化を図った。



【部門連携(港湾緑地の整備概要)】

キャッスルプロムナードの芝生広場については、瀬戸内海や島々をゆったりと眺められるよう築山とし、広場内には香川県産庵治石のベンチなどを設置し、訪れた歩行者が滞在できる空間とした。

また、史跡高松城跡北側に位置するため、緑地東側にある多目的広場の平板ブロック舗装は、高松城跡の歴史的な景観との調和に配慮し、高松城跡の北側広場と同様の格子模様を施した。



10. 連携した部門

連携した部門（主部門：◎、連携先部門：①～⑤）

道路	河川	都市	住宅	建築	港湾	漁港漁場	鉄道
		◎			①		

連携した部門に関する情報

	実施機関名	対象事業又は施策	対象事業又は施策の内容
①	香川県土木部港湾課	高松港（玉藻地区）港湾環境整備事業	安全で快適な歩行空間の確保 海辺のにぎわい空間創出のための港湾緑地の整備

11. 異なる部門の事業が連携した取組の概要

同地区をより魅力的な海辺空間にするため、近接する港湾エリアとの一体的な整備が必要であることから、港湾管理者と連携し、港湾緑地の整備を行った。

また、本プロジェクトは、関係する部署や団体が多岐にわたることから、県及び高松市の関係部署との情報共有や役割分担を協議・調整することが不可欠であったことから、県・市担当者会議を設置し、各種検討を行った。

12. 各段階における連携の工夫・効果等

【港湾事業との連携】

連携事業では、香川県立アリーナから北浜地区までを結ぶウォーターフロントに、緑地を配置しており、未整備区間である「キャッスルプロムナード」において、安全で快適な歩行者空間の確保と海辺のにぎわい空間創出のための港湾緑地の整備により、連続した動線の確保と滞在空間の形成を図った。



【高松市との連携（県・市担当者会議）】

香川県都市計画課を事務局として、関係する担当者が自由に議論できる担当者会を設置し、2週間に一度の頻度で開催した。同会議は、常任メンバーに加え、プロジェクトの進捗の状況や内容等により関係する部署が参画できる形をとった。

本会議を通して、役割分担の調整や各種課題の共有、進捗状況の報告などを会議の場で行うとともに、合同で現地確認を行い、効果的な整備内容を協議した。特に、課題の共有では、複数の関係者が揃う場で議論することにより、多くのアイデア提案や関係部署と繋がることのできる体制が築け、迅速かつ円滑なプロジェクト推進ができた。



【短期間での整備】

プロムナード化工事は、香川県において令和6年9月に着手し、令和7年2月の香川県立アリーナ開館に合わせた供用に向け、高松土木事務所が設計段階から工程計画を策定し、高松市や、警察、交通関係機関等と密に連携するとともに、施工管理では、12者からなる施工業者等と工程管理の協議を重ねることにより、着工から約半年間という短期間での工事完成、また、同事務所において、連携事業である港湾緑地等の整備についても工程管理に努めた結果、同時期に完成した。

令和7年度は、サンポート高松地区周辺において、瀬戸内の島々を舞台に、3年に一度開催される現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭 2025」が開催され、国内外から多くの来場者が見込まれており、本事業によるにぎわい創出や憩いの場として活用され、これら空間の形成により、一層の地域活性化が期待できる。